

平成20年度研究成果実用化促進事業 採択課題一覧（二次公募）

平成20年8月13日

農林水産技術会議事務局

番号	課題名	地域農業研究・普及協議会（事業実施主体）			課題の概要	
		名称	研究実施機関	実用化支援機関	基礎成果名称	開発研究の内容
6	大規模畑作地帯における加工・業務用キャベツ低コスト調整システムの確立	鹿追町営農指導対策協議会	北海道立十勝農業試験場 北海道大学 十勝農業改良普及センター 鹿追町農業協同組合◎	(独) 生研センター (独) 北海道農業研究センター 北海道立中央農業試験場 ヤンマー農機株式会社 エスアイ精工株式会社 サンポー食品(株) 横浜丸中青果株式会社	キャベツ調整選別ライン	キャベツ調整ラインは、生食用キャベツについては試験を行っているが、加工・業務用キャベツについては実施していない。また、収穫作業の大幅な省力化が図れる機械収穫のためには本調整システムが不可欠である。さらに、普及のためには実証試験を通じて開発研究する必要がある。
7	低段多段組合せ栽培によるトマト安定多収栽培体系の開発と実証	SHP関東地域農業研究・普及協議会	千葉大学大学院園芸学研究所 野菜園芸学研究室 神奈川県農業技術センター 野菜作物研究部、経営情報研究部	(社) 日本施設園芸協会◎ (独) 野菜茶業研究所 神奈川県農業技術センター普及指導部 野菜課 太洋興業株式会社	農作業支援ロボットを用いたトマト低コスト高生産システムの開発	実用規模の施設での作業管理体系等が未解決で、かつ低段密植栽培のみでは冬春期に十分な収量が確保できない。そこで、冬春期に多収となる多段栽培と組み合わせることによりトマトの周年安定多収栽培体系を確立する。
8	単味の食品残さを活用した発酵リキッドフィーディング技術の確立	豊川宝飯地域農業研究・普及協議会	日本大学生物資源科学部 愛知県農業総合試験場	ひまわり農業協同組合◎ 愛知県経済農業協同組合連合会 愛知県東三河農林水産事務所農業改良普及課 (株) 小田急ビルサービス	食品残さを活用した発酵リキッドフィーディング技術	特定乳酸菌による食品残さの発酵リキッドフィーディングを養豚農家が導入するには、発酵管理にコストと手間がかかるため中小農家経営の多い日本の養豚界においては普及が困難である。そのため、地域で発生する単味の食品残さをセンター方式にて発酵培養し発酵バイプロ液として畜産農家に供給することで、中小養豚農家でも導入できる低コストで効率的な発酵リキッドフィーディング技術を実現する。
9	「タカナリ」等多収穫稲品種の低コスト栽培・米粉利用適性の確立	新潟下越地域農業研究・普及協議会	グリコ栄養食品株式会社 新潟県農業総合研究所食品研究センター 新潟県農業総合研究所作物研究センター	新潟県稲作経営者会議◎ 協同組合 米ワールド21普及協議会 新潟県村上地域振興局農林振興部 坂井製粉製麺有限公司	多収穫品種「タカナリ」の育成	タカナリは、多用途利用を狙いとして育成された品種であり、関東以西での温暖地での収量は高く有望なもの、主食用米としては食味が低いこと、多用途向け適性が明らかとなっていないこと等の理由から普及していない。このため、新たに米粉生産の盛んな北陸地域での低コスト栽培の可能性を検証するとともに、米粉利用に向け、新潟県の開発した微細製粉方法とのマッチング、パン、菓子等の用途別の積極的な加工適性を明らかにし、当該品種の能力を活用した利用拡大を図る。

注：◎は事務局担当機関